

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 27 年 (2015 年) 第 45 週 (11 月 2 日～11 月 8 日)

発行年月日:平成 27 年 (2015 年) 11 月 13 日
 発行 行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎および RS ウイルス感染症
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で増加、甲賀を除く保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で増加、長浜および高島を除く保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
- 4) RS ウイルス感染症が全県で増加、大津市、草津、東近江および長浜保健所管内で増加
- 5) 咽頭結膜熱および伝染性紅斑は全県で増加
 - ・ 両疾患共に全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 45 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 4例	肺結核(20歳代男性、70歳代男性)、結核性胸膜炎(20歳代女性)、無症状病原体保有者(70歳代男性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2例	O157VT1VT2(30歳代男性、20歳代女性)
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例 侵襲性肺炎球菌感染症 2例	G群(70歳代女性) 10歳未満男性、60歳代女性
第 44 週以前の診断例(*)	五類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例	G群(70歳代女性)

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成27年第 45 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 27 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(45週)							平成27年累計		平成26年累計※	
		44週	45週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	3	4	0	0	0	1	3	0	0	185	20,438	229	25,780
三類	細菌性赤痢	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	142	1	158
	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	1	0	0	0	0	1	0	41	3,350	86	4,131
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	163	0	151
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	219	2	432
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	61
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	258	0	340
	レジオネラ症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25	1,369	16	1,236
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	934	12	1,120
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	212	0	226
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1,422	5	313
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	430	1	459
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	152	0	178
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1	0	0	0	0	0	0	14	365	6	273
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1,196	9	1,518
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	1	68
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201	4	196
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2	1	0	0	1	0	0	0	28	1,907	19	1,777
	水痘(入院例)※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	251	1	137
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	37
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2,155	7	1,661
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	95	0	35
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	98	1	126
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	146	0	321
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	2	232	

※ :平成27年1月現在の暫定数

※※ 平成26年9月19日より全数把握対象の五類感染症に追加

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

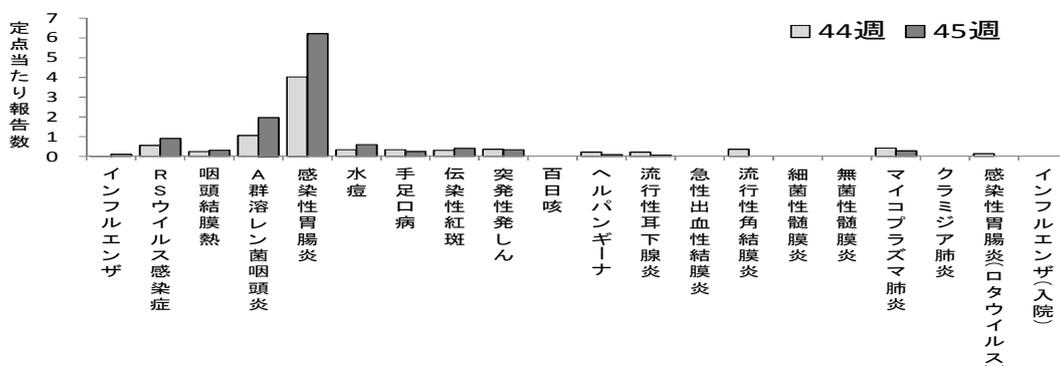
警報: なし

注意報: なし

滋賀県の定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超えた場合および定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令します。

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎およびRSウイルス感染症です。
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で増加、甲賀を除く保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
- 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で増加、長浜および高島を除く保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 3-8歳、特に6歳(19%)、7歳(16%)に多く報告されています。
- 4) RSウイルス感染症が全県で増加、大津市、草津、東近江および長浜保健所管内で増加しました。
 - ・ 2歳以下で97%が報告されています。
- 5) 咽頭結膜熱および伝染性紅斑は、全県で過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

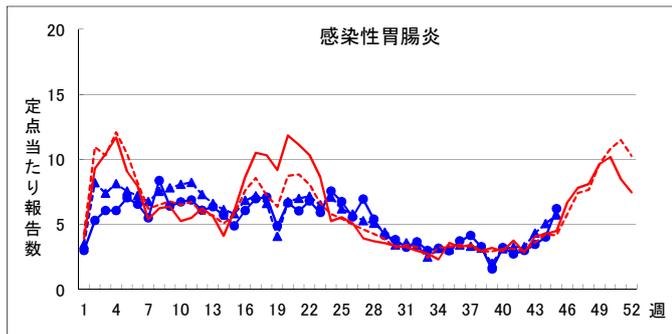
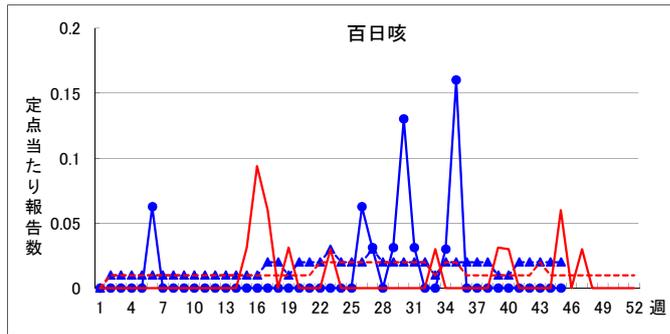
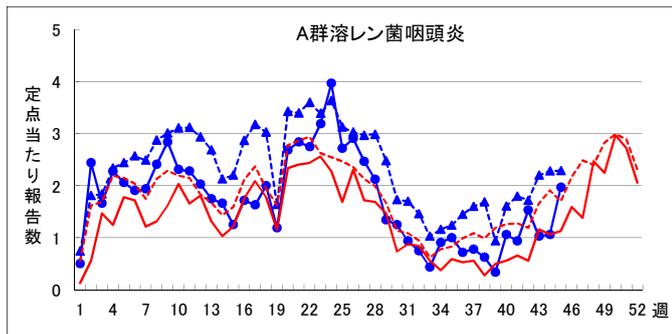
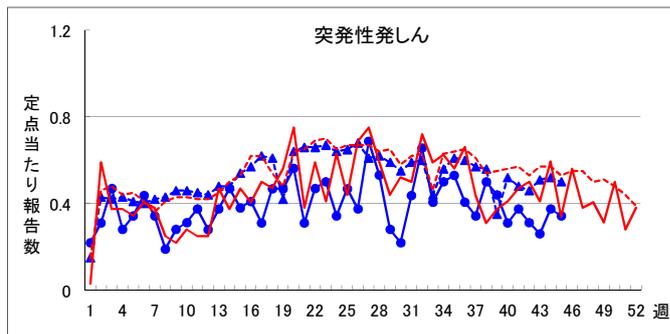
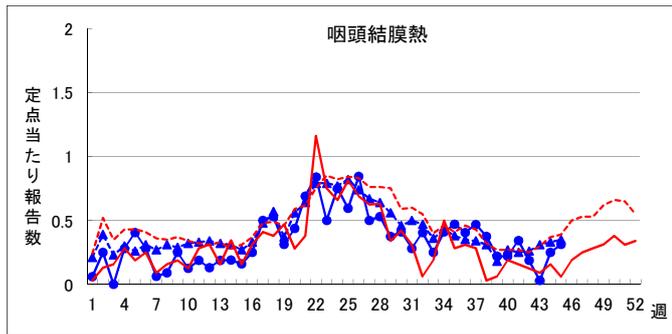
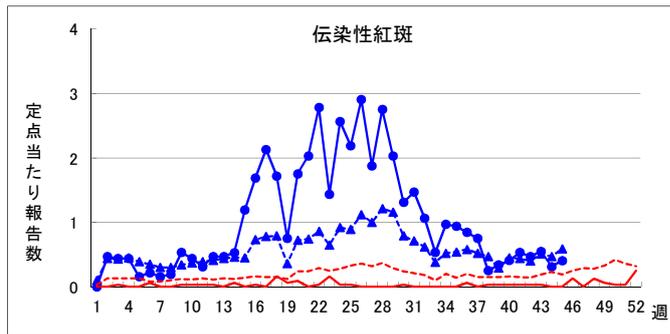
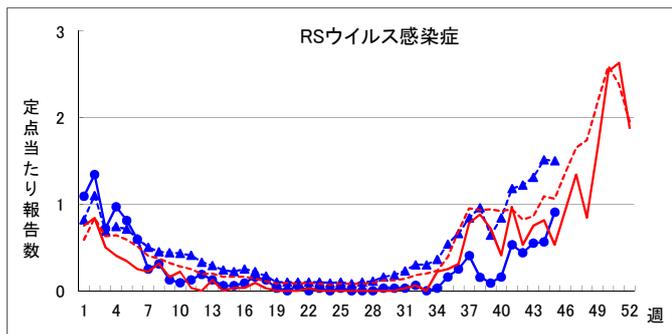
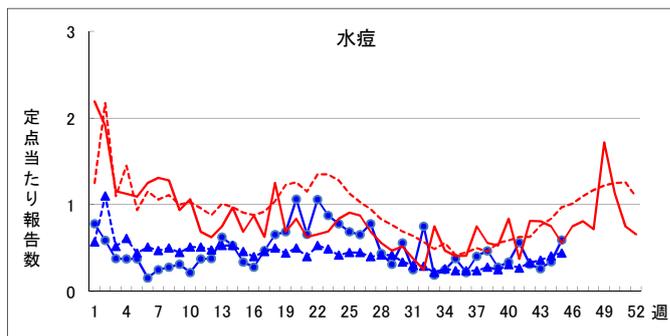
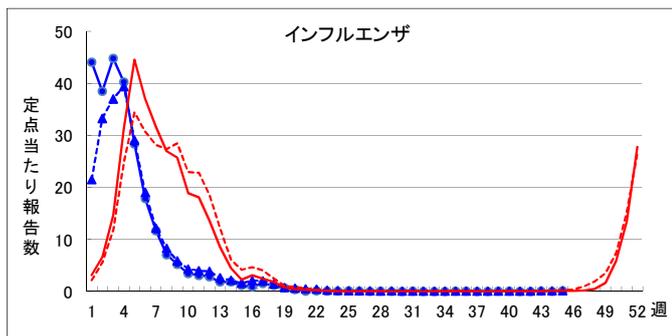
週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(45週)						
		44週	45週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.02	0.11	0.27	0	0.14	0	0	0.29	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0.56	0.91	0.43	1.00	0.50	2.40	0.50	0.50	1.00
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.25	0.31	1.00	0.17	0	0.40	0	0	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.06	1.97	3.57	2.67	1.50	2.00	0.75	0.75	0
	感染性胃腸炎	4.03	6.22	6.86	8.33	1.25	5.60	5.25	10.00	3.50
	水痘	0.34	0.59	0.71	0.33	1.00	0.40	0.25	0.25	2.00
	手足口病	0.34	0.25	0.14	0	0	0.80	0	0.25	1.00
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.31	0.41	0	1.00	0.50	0.20	0.75	0.25	0
	突発性発しん	0.38	0.34	0.43	0.50	0.75	0.20	0.25	0	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.22	0.09	0	0	0	0.20	0	0.25	0.50
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.22	0.06	0	0.17	0.25	0	0	0	0	
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.38	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.43	0.29	0	0	1.00	0	0	1.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
 紫字: 注意報レベルの基準値を超過

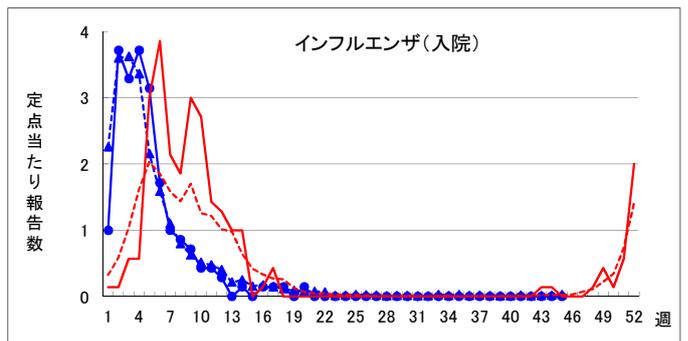
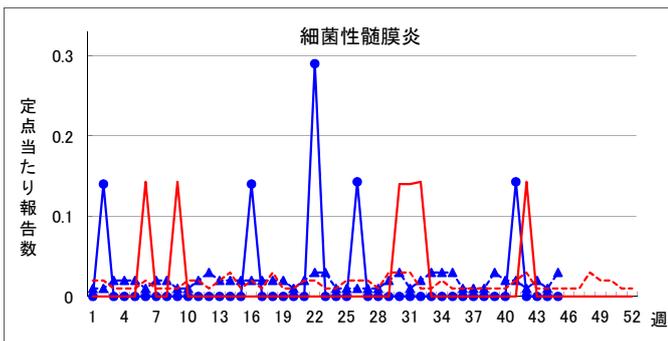
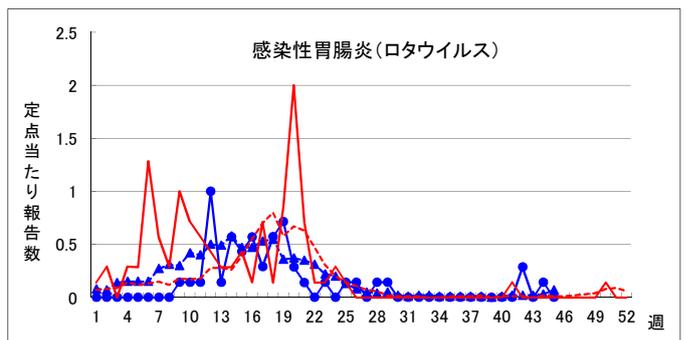
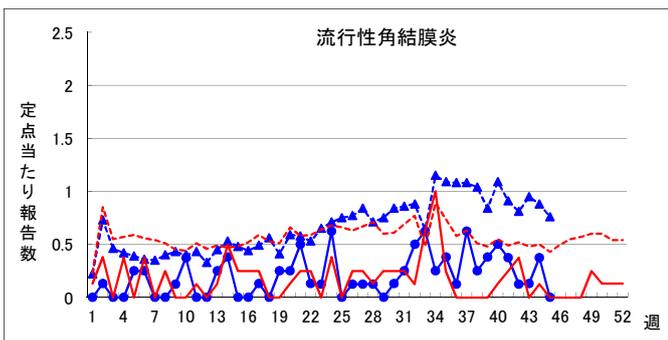
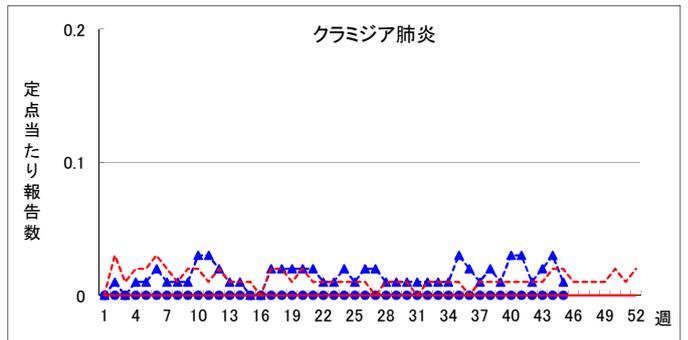
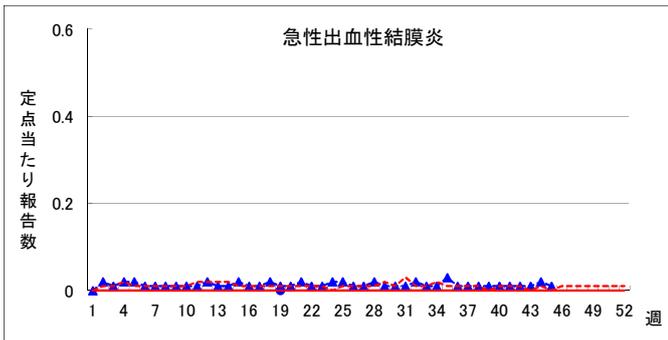
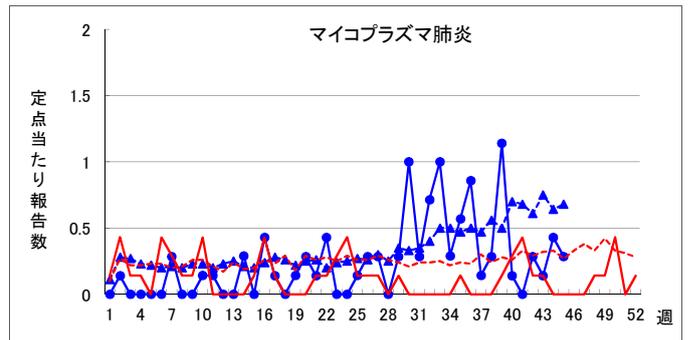
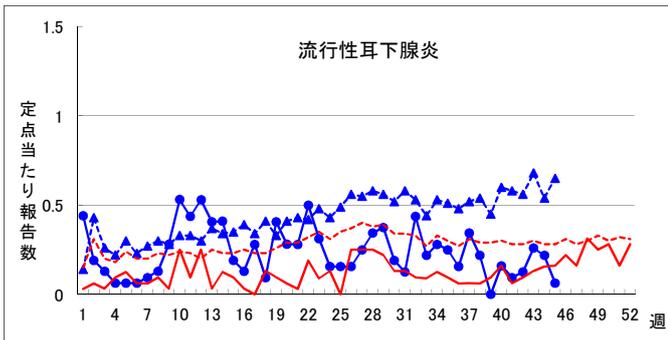
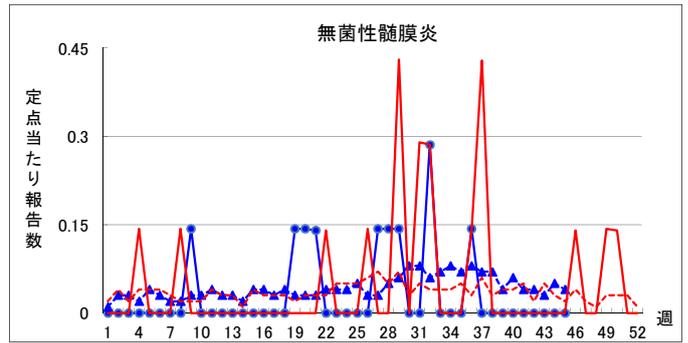
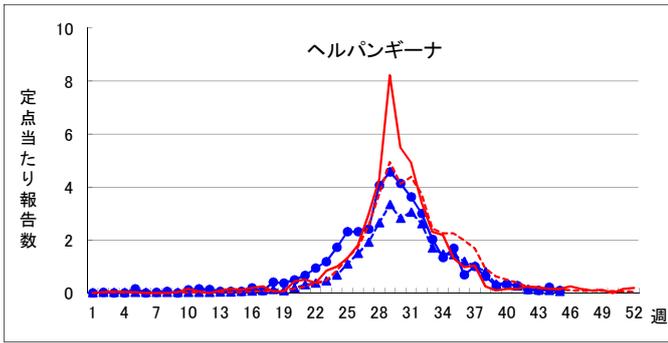
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第45週

--- 平成26年 全国 — 平成26年 滋賀県
-▲- 平成27年 全国 —●— 平成27年 滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第45週

- - - 平成26年 全国 平成26年 滋賀県
 -▲- 平成27年 全国 平成27年 滋賀県



滋賀県におけるエンテロウイルスD68の検出状況

1. エンテロウイルスは、夏から秋にかけて多く発生する呼吸器症状の主な原因です。
2. 急性弛緩性麻痺を発症した患者からエンテロウイルスD68(EV-D68)が検出された事例が国内外で報告されているため、急性弛緩性麻痺の発症と本ウイルス感染との関連が疑われています。
3. 平成27年において国内の広い範囲で、本ウイルスの検出例が報告(134例、11月6日現在、国立感染症研究所)されています。
4. 滋賀県感染症発生動向調査において、全国的に検出数が増加した平成22年および平成25年に上気道炎および下気道炎患者の検体からEV-D68を検出していますが、急性弛緩性麻痺を発症したEV-D68感染症例は確認されていません。平成27年は検出はありません。

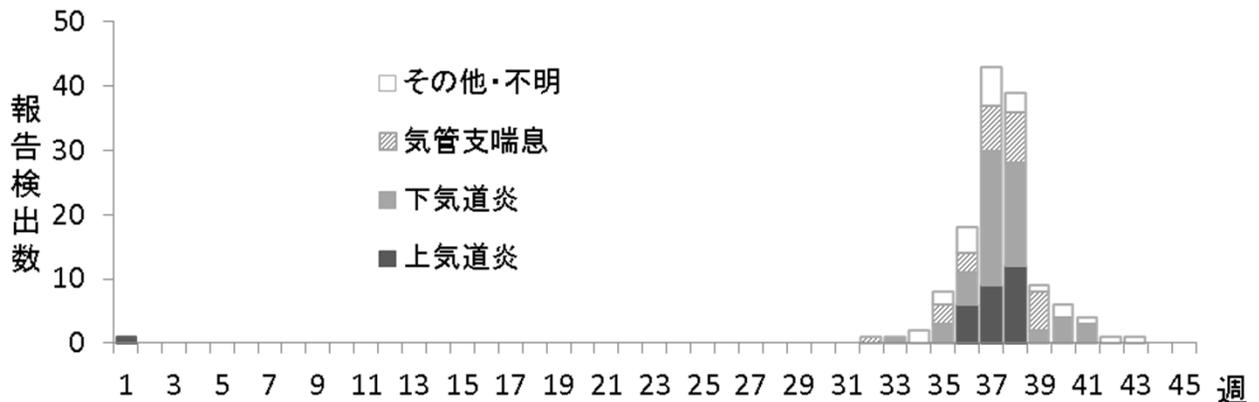


図1. 全国のエンテロウイルスD68の報告検出数(平成27年11月6日現在、国立感染症研究所データより作成)

滋賀県におけるノロウイルスGⅡ.17変異株の検出状況

1. 感染性胃腸炎はカンピロバクターやサルモネラなどの細菌、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスなどが原因で起こり、主に下痢やおう吐などの症状がでる感染症です。
2. 特に、秋から冬にかけては主にノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎が増加します。
3. 平成27年1月以降に、新たなタイプのノロウイルス(GⅡ.17変異株)の検出例が全国的に確認されています。多くの人が本変異株に対する免疫を持っていないため、平成27/28年は例年以上に流行が大きくなる可能性が指摘されています。
4. 本変異株による感染は、市販の簡易検査キットで正確に診断できない可能性があることが報告されています。
5. 滋賀県では、平成27年1月および3月の食中毒事例を含む集団発生事例、また、同年1月の散発症例において、本変異株を検出しています。

